

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アクティブスクール河和田校		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 30日		～ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 30日		～ 2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	教室の広さ/運動スペースの確保	<ul style="list-style-type: none"> 運動する際のスペースの確保 静と動の空間分け 	<ul style="list-style-type: none"> 古くなった運動マシンの廃棄 設備の修繕
2	チームでの個別支援計画の作成/利用者様の状態の理解	<ul style="list-style-type: none"> 利用者様の情報をLINEで報告/共有を毎日行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有のためのMTだけではなく、それを元にした決定や方針を定められるようにMTの質を上げる。
3	卒業後の進路	<ul style="list-style-type: none"> 高学年の就労A・B体験 移行施設への情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> 当グループないの就労A・Bや生活介護の体験を長期休みの際に定期的を実施する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援の周知徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援管理責任者の病欠 管理者の出張による不在 	<ul style="list-style-type: none"> 支援について疑問点が出た際には必ず個別支援計画をみて、それに基づく支援を行う。 もしも個別支援と支援に乖離がでて現状の支援が最適だと分かった際には、個別支援を即座に修正して、本人/家庭/現場に情報の共有を行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内の業務/支援の連携 	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援管理責任者の病欠 管理者の出張による不在 	<ul style="list-style-type: none"> 4月より不在であった児童発達支援管理責任者と管理者が教室に戻る予定なので、毎日の定期的なMTを通して業務の割り振りや連携を見直していく。
3	支援内容の周知	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援管理責任者の病欠 管理者の出張による不在 	<ul style="list-style-type: none"> こちらも4月から2名が教室に戻る予定なので、毎日のMTを通して、意思疎通と周知徹底を行って行く。